

平成 17 年度「日本医学図書館協会奨励賞」選考結果（報告）

1. 協会賞・奨励賞選考委員会

委員長・協会賞 青木 仕（順天）

委員長・奨励賞 土佐智義（広島）

委 員 小川禮子（女栄）、高野史子（東医）、富田麻子（日医）

2. 選考経過

平成 17 年度上記奨励賞について公募締切日平成 18 年 1 月 31 日までに応募は無かったが、選考委員会委員で候補を推薦し、慎重に審査した結果、受賞者を下記の通り決定したので、ご報告いたします。

3. 選考結果

圖田英孝（東京医科大学図書館）

対象論文：電子ジャーナルにおける訂正記事の扱い。

医学図書館 2005;52(2):138-44.

（推薦理由）

電子ジャーナルの普及に伴い、本研究のテーマは新規性があり関心の高いテーマの分析である。研究テーマの着眼点としては、意義ある主題の選択である。調査の結果は、被訂正論文では訂正記事へのリンクの有無に雑誌や出版社によって相違が認められ、被訂正論文と訂正記事との相互の参照はいまだ充分にリンクが張られていないことが判明した。

本論文は電子ジャーナルの普及に伴い時宜を得た調査であり奨励賞に値する。

諏訪部直子（杏林大学医学図書館）

対象論文：①「EBM」を書名に含む国内臨床医学書の分析と評価。医学図書館 2004; 51(4):363-7. ②臨床医学論文に必要な情報リテラシー。医学図書館 2005;52(1):53-8.

（推薦理由）

① では、筆者は年々増加傾向にある EBM 医学書の出版点数を NACSIS-CAT から抽出し、分野別にその件数と傾向を調査した。その結果、解説書が約 3 割を占め、公衆衛生はもとより臨床医学分野まで広く出版されていたことが判明した。次に EBM 臨床医学書と一般医学書について、その引用文献のエビデンスのレベルを比較したところ、双方に顕著な違いは見出せなかった。本論文は図書館員の視点から EBM 関連図書を計量的に分析し簡潔にまとめている。

② は、1.論文作成の情報リテラシー、2.生物医学雑誌への統一投稿規程の動向 3.EBM の潮流、4.論文執筆の注意などについて解説している。本論文は原著論文ではないが論文執筆に際して有用な最新情報を参考文献に列挙しまとめている。これから論文を執筆する若手研究者には役立つ内容である。

このような筆者の継続的な論文の執筆は、奨励賞に値するものである。